



いふも、由

かゝるの物とあはれぬ

山崎のいふ



いふ物

いふ物

てふのいふ事(一)は
賦(一)起(一)系(一)か(一)よ(一)取(一)は
ろく(一)き(一)く(一)せ(一)り(一)地(一)は(一)と
遠(一)く(一)は(一)後(一)其(一)は
予(一)民(一)を(一)た(一)も(一)し(一)た(一)は

力(一)付(一)石(一)上(一)物(一)事(一)地
予(一)民(一)を(一)た(一)も(一)し(一)た(一)は
遠(一)く(一)は(一)後(一)其(一)は
ろく(一)き(一)く(一)せ(一)り(一)地(一)は(一)と
賦(一)起(一)系(一)か(一)よ(一)取(一)は
てふのいふ事(一)は

のしるはらふとて
此國のふりかたを
る業はふたふた
まはらふとて
流久下地神風の
いひ

まはらふとて
りしとて
りしとて

安永九庚子年仲秋

五條式部大輔菅原為俊卿

栖霞殿

香波殿之

五辨左將大轉音京風對

香波殿之
香波殿之
香波殿之
香波殿之
香波殿之

凡例

- 一 此編の巻首に平安城とあり其四方に帝の鎮座の
- 四神小官とあり先社社の芳境佛図は佳邑山川の交り
- 今時の風景及びそのまじり模写し舊本花洛細見圖と増
- 益して時々其遺漏を巡歴し按社州府たりと一字と増
- 知童は坐して古蹟の勝地と見ゆるは肝要と
- 一 文後宮古兼時記山城名所紀行と稱し且舊記小委と
- 其大意は志し又脱漏あり微細に搜て求むるは撰書
- とる事専ら
- 一 圖中に境地廣大なる所は細く細画之狹少なる神祠小堂と
- 又亦は故み家毎に人物あり形容を以て微少なる人物は其
- 地廣大なるも形容微少なるは境地狹少なるは併に
- 加茂社と野宮との境地を知るとるは便し

一 圖中の間々人物は大画あり四時の位観と賞して極楽の地と
 知せられたる活東の花見宇治堂将等と
 一 圖中れ名所又連綿の地有り園乃上に系系と云ふまねと
 繋く八幡神宮寺より宿院石法ありあゝいゝ宇治乃橋と
 惠心院興聖寺かとの連綿の地と
 一 比叡山の圖有り東塔坂本より近江之志有り西塔より
 連綿の地有り隆くとも往々山崎若観寺も括別乃界
 かとともと云ふたればおまゝの圖と

都名所圖會卷之一目錄

平安城首

- | | | | |
|----------|-------|-------|---------|
| 内裏圖 | 上御靈 | 中川 | 相國寺 |
| 京極八幡 | 幸神社 | 絲井 | 妙覺寺 |
| 妙蓮寺 | 妙顯寺 | 本法寺 | 千宗佑家 |
| 大應寺 | 報恩寺 | 堀川 | 一条庆橋 |
| 小野小町草紙洗水 | 安倍清明社 | 水天天神 | 興聖寺 |
| 瑞光院 | 奉隆寺 | 桜葉宮 | 石像寺 |
| 欽喜寺 | 石神社 | 聚樂亭旧地 | 般舟院 |
| 西陣織物袴 | 淨福寺 | 大超寺 | 阿弥陀寺 |
| 十念寺 | 奉滿寺 | 廬山寺 | 淨華院 |
| 下御靈 | 革堂 | 清荒神 | 高田奉誓寺 |
| 妙滿寺 | 奉徳寺 | 頂妙寺 | 源三位頼政旧跡 |

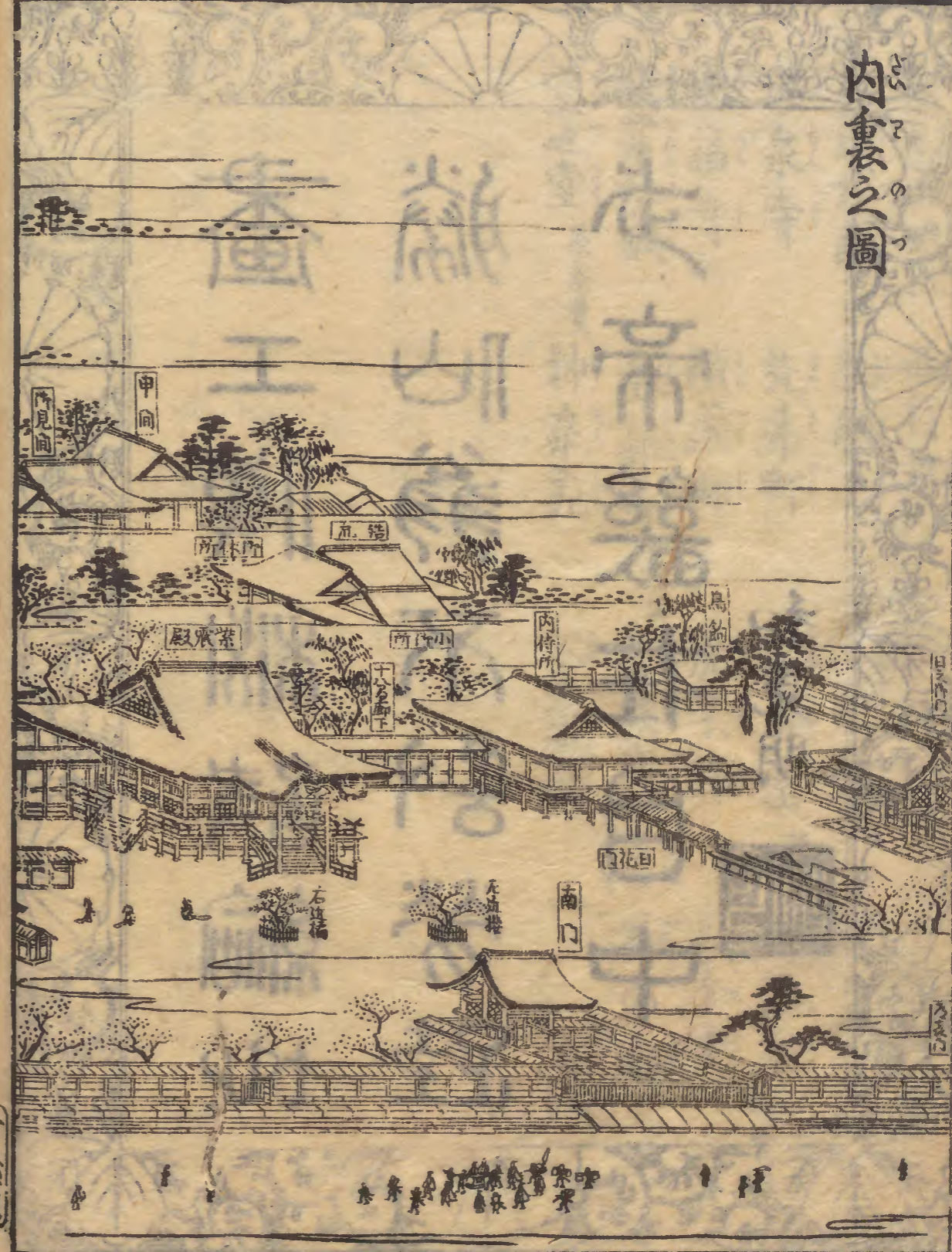
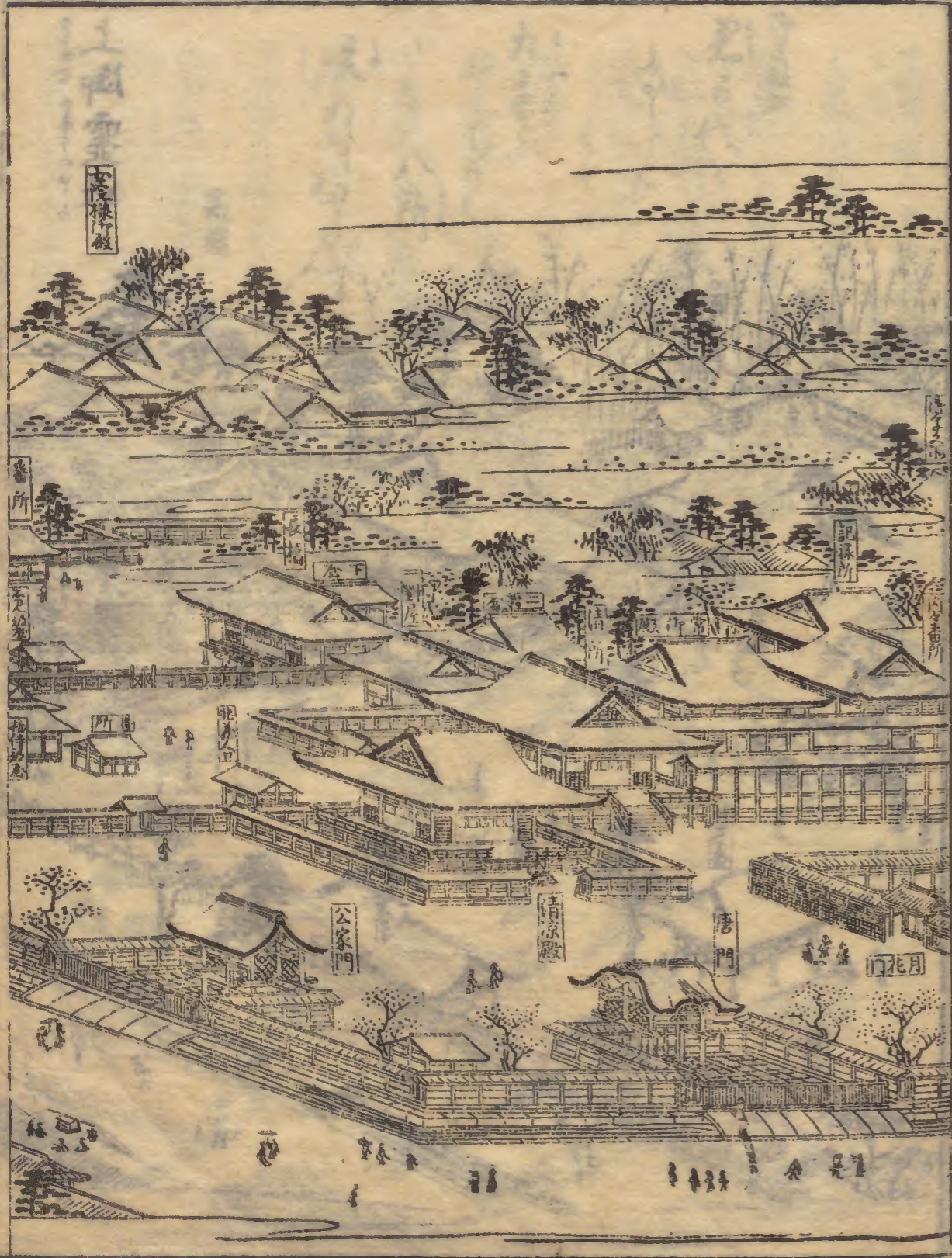
畫工陳糶諷編地
 騰心翁不討勞跬
 步帝畿在目巾

和克明



高松神社 西行水
 久田地藏 生洲
 瑞泉寺 先斗町
 園福寺 蛸薬師
 腹帯地藏 泉式部塔
 空也堂 茶釜賣 神泉苑
 御所八幡 三条橋
 六角堂 虎薬師
 誓願寺 未用紅
 不来薬師 柳の水
 天性寺 檀王
 錦天神 千鳥化
 塩竈社

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 平安海首]



内裏之圖

上御霊社



所長社記
君の代と

あつらん

九巻ふ

八所

まのしりあん

高橋



上御靈社と平安城鞍馬口通南ありの多神早良親王 伊豫親王 藤原真人 天智天皇 天武天皇 天智天皇 天武天皇 天智天皇 天武天皇

等の八所御靈の朱雀院の清宇天慶二年小鎮を奉る中津靈の御通所 當社の御格所

の故不出雲洛に御靈より例祭八月七日

○早良親王の光仁帝第二の皇子なり延暦四年九月朝廷に頓首しんと

議をあらわし其旨をのりて淡路國に先遣し同國高嶺に坐す

と薨下の入念靈崇徳の御子なり同十九年七月小崇徳天皇の追號を宣下し

ゆへに伊豫郡藤原村に伊豫親王と崇徳天皇の御子なり平城帝の御時

逆をあらわし川原寺に御力を飲食と通じ給ふなり○藤原真人の崇徳天皇の

后吉子に號し伊豫親王の御母なり○文屋宮田に承和十年十二月小崇徳天皇の

て伊豆國に配流し奉りなり○橘逸勢は中辨位下入居の子に後醍醐帝の御時

統書りて奉朝三孝の具人なり仁明帝に清宇天皇和元年七月小崇徳の事あり

るまに伊豆國に流罪せし九月に死しなり○橘廣嗣と名原宗合の皇子に

之宰府ふ所の七坂逆ありし大坂東人宣旨を奉り馳向いて死し廣嗣敗北し

て自刀を以て首を落し且頸をみまき空中より赤鏡とありなり人々をく

く昂死と豊後國鏡宮肥前國板楯明神等け靈はは川とる○古備大

臣の右大臣正二位之奉朝と雙の才人正天皇に遺唐使の唐書りて野馬臺

の文紙讀みしとるふ文議曉ししつぬ小朝初瀬の觀世音は心中の靈

具時蜘蛛くをりて系な引て教るにを容易ありなり天平五年小崇徳光

仁帝實の龜六年薨下なり年八十二歳○火雷神の北野に満天神あり

觀音堂は本尊の聖徳太子の化して聖觀世音是刻出たまは奉るなり

中川を上御靈社との流といふ鴨川と東川といふ桂川と西川といふ其の中ありしゆき

け一名系極川とも號今れ系極通寺院の筋ふ川あり藻垣岬あり中川の系極

川なり是御堂殿は成寺の向と流くくせ又源氏巻の隠して中川の

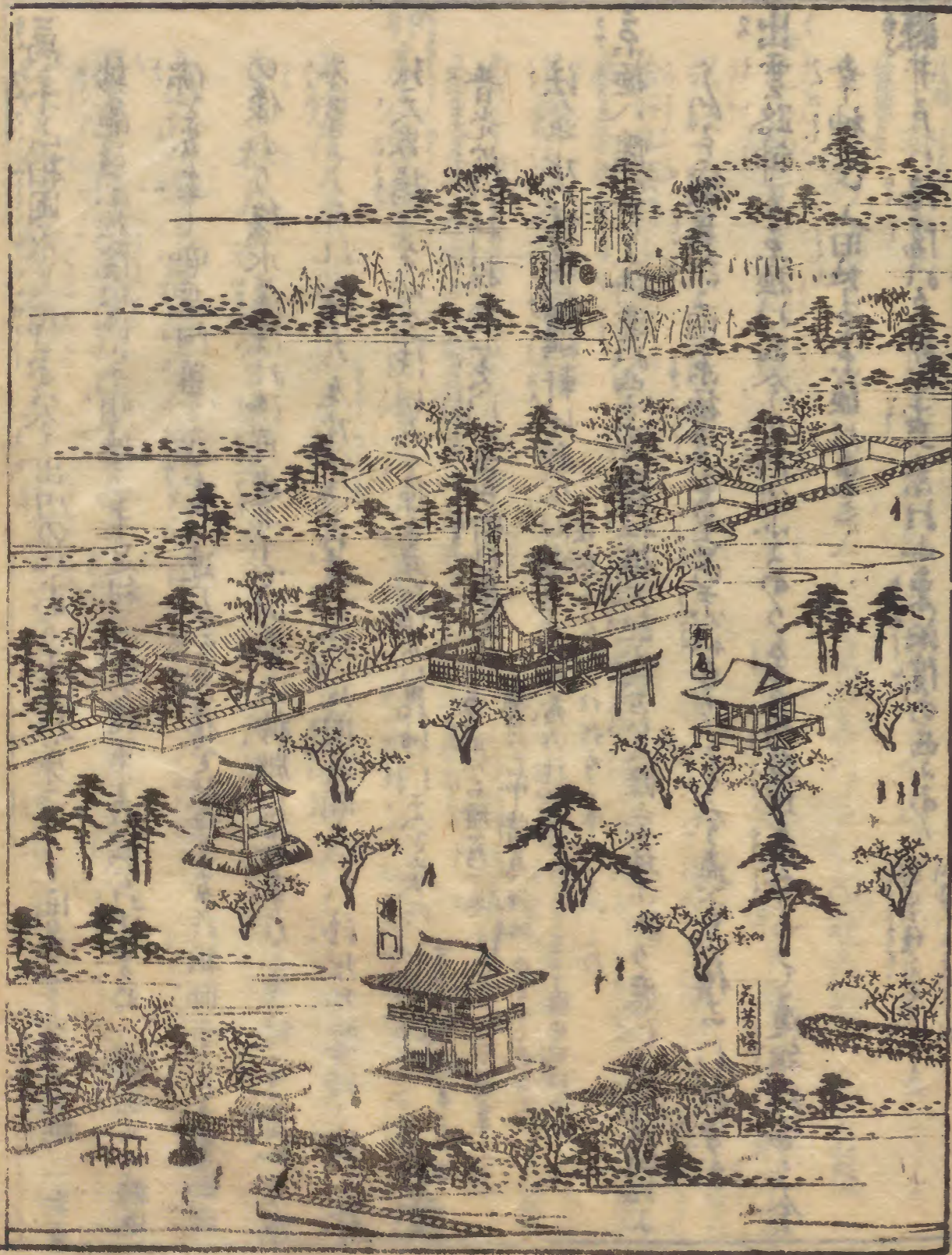
ふゆき空塚と墓とのいふものあり

けけらるる水とせれんく本流とせり中川に宿 先後

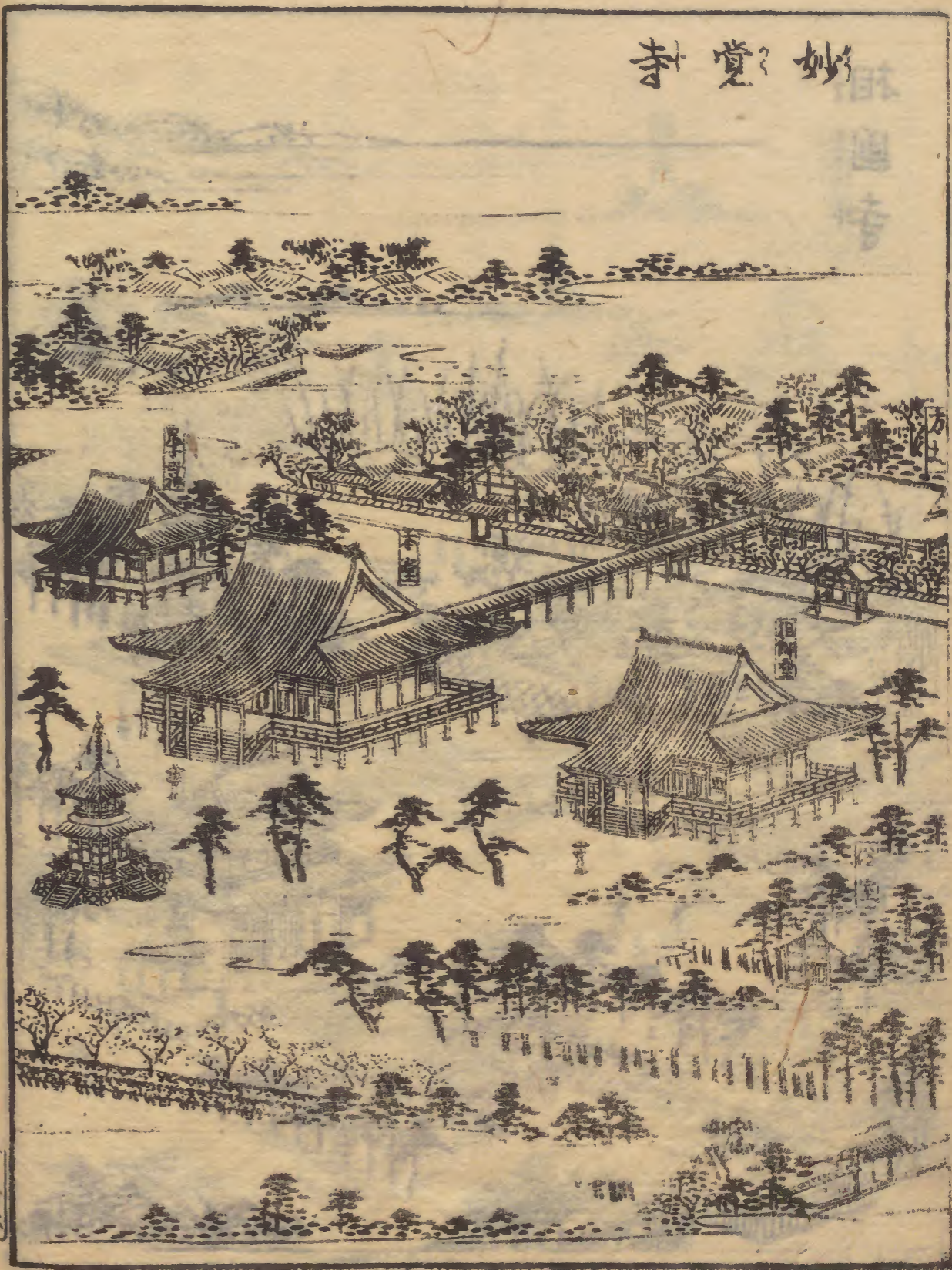
所後とるつの中川の人ぬきはせらるるあせぬらん 早良親王

相國寺





妙覺寺

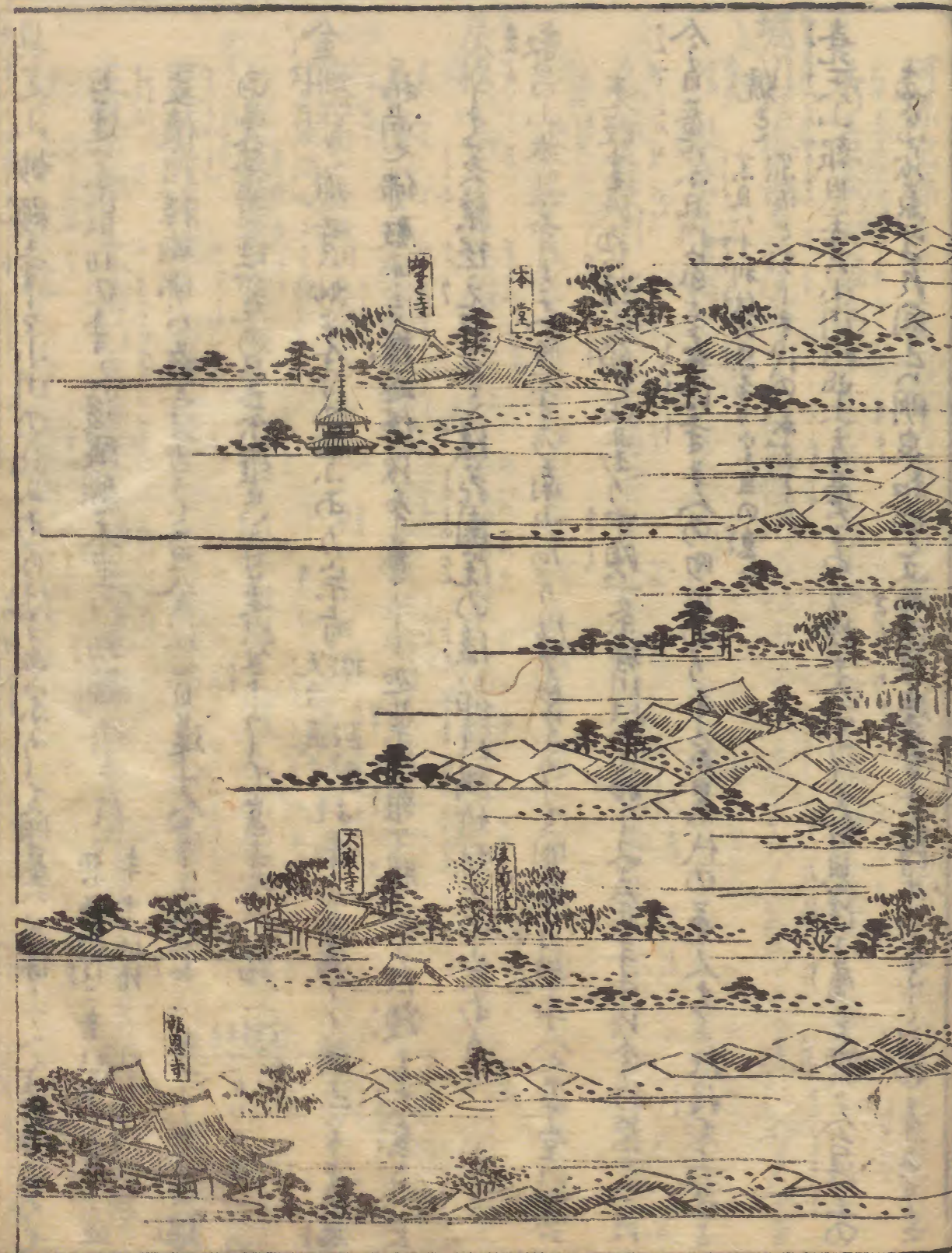


萬年山相國水天禪寺今出川の北あり五尺身二寸して開基と友定國師二世を
妙範後小松院に清宗明德二年足利三代の將軍義満が再建せり佛敎の興
佛と名をとり迦葉阿難と名をとり蓮と名をえの像を彫造する祖師堂あり友定國師
の像あり後水尾院に清再建して同帝の神牌を安置する三重塔と大日如來を
奉尊するこれ後水尾院の清再建して山門に圓通閣といふ沐波功德作號一楹
松久界橋するんを法けり庫裏の傍に毘沙門天と安ん
普光院に竹林の美門定家卿の墓あり 墓前石燈籠一基あり銘曰貞享三年
輿月右中將為經辨建之也 塔頭
法然水の塔頭松鷗軒にあり 法然上人の法舎の跡に寺ありて百萬遍の回廊あり
系極八幡宮の上清靈に西あり諸社根元記曰古に三條京極あり應仁の以後は此よ
うのと盛衰記曰系極寺を日吉の末社ありて今直言之僧の住守り
出雲路神と系極に西今出川の北あり多の所様由來命して通祖社あり今
幸神といふ旧地と系極に東に
縣井戸ハ洛陽に名所と古一條に小東洞院の西あり 縣守傳ふありて
山ありて名あり

後鳥羽院 都人きんもあらん蛙鳴くあつねるあつねるうんか
後鳥羽院

具足山妙覺寺の新町頭あり法義宗にして開基ハ日實上人なり樓門の金剛力士
弘法大師の祖師堂あり日蓮日朗日像三師の像を安置する 法堂を法義の
造りて
恰好比類あり諸堂 花芳塔あり日蓮自筆の法義經を収む紫印金乃曼
建立の規矩あり
茶羅角龍は曼茶羅と其日蓮の字ありて當寺に什寶あり いまいちへも
入廟三条にあり
あり今妙覺寺町といふ正年中秀吉公に命ふりて此地よりいふ
又當寺小西工將野古法眼元信具外將野家叔代の墓あり
卯木山妙蓮寺と寺内通小川の西あり右に宗ありて開基ハ日像上人なり古
西洞院五条小あり柳屋仲具といふもの日像と歸依して宅地あり 後鳥羽院
寺に稱し其後大宮通四条に南ふりて又之折々禪寺通大宮に遷る止て四年
小は此小移と當寺の什寶に祈雨の奉尊と七日連上人の自筆法書は昌泰
羅あり後光嚴院に清宗と天下大早にけ奉る故に桂川のなりけり後兩
れ法を修せむ忽靈在りて大雨敷ふ乃ふ故に日連上人を靈の號と稱す





本法寺
 大應寺
 報恩寺
 妙蓮寺
 千宗佐宅



具足山妙顯寺と小川の北あり法華宗にて開基日像上人之洛陽也

日蓮宗最切の寺之後醍醐天皇に勅願所初西洞院二条の南あり天正

立像に釋迦佛の長寸ありて黄金に之日蓮上人常小持念年中此地より

の曼荼羅經一九の曼荼羅共日蓮上人筆ありて當寺の什物經一九日像上人の

金剛山大應寺の妙光寺の西あり宗旨天台真言比叡公且屬して開山を虛應

和尚之佛教よと釋迦佛を尊迦葉阿難と脇士と額を大書すと

して其蹟隠之れ等と後花園院の後堀川隅竹林の中あり

叡昌山本法寺と大應寺の南あり法華宗にて開基日親上人之本堂に額

光悦書に初凌小路の西あり中須一条堀川に西移又天正年中に今れたる

今日菴宗且其家を本法寺と人の町にあり千家累代の系人ありて上流と

號と宗且八十利休の孫ありて宗且の息の

堯三山報恩寺と小川の西上立賣あり淨土宗ありて智恩院屬と初天台淨土の

本宗公兼字及開山明泉和尚と西蓮社慶譽上人淨土の宗とぬむ本尊と

阿弥陀佛ありて安阿弥の位あり當寺の什物小虎の画あり四明陶俗を

秀吉公の時聚樂亭小ありて夜に聲が發と故世人鳴虎と稱

堀川北水上を二流あり其一鴨川の枝ありて上京とい人家の下流にあり

堀川一条戻橋下を合流星を小川とい又一流は善峯より出今宮東に流と

名は若狭川とい其戻橋下を合流南へ流れ東寺に經て上鳥羽おろわ鴨川

水上を流るありていふ代ぬくけり堀川のあり善祐好忠

戻橋と一条通堀川北上あり安陪晴明十二神將は橋小鎮を奉依り

星と使入世の人吉凶とい橋ありて占神將の人小説して告ぐぬん

二位殿一条堀川戻橋の木の爪車と云ふふ善清の死と子此保藏又ふ

くち能形者城と云く入浴し橋なる人々父の喪送不遇小推と止て橋上

置肝膽を推念珠採大小の神祇と橋を逐小咒力陀羅尼は徳小の

王界小徹一父清の急病生を深義涙揮て父を抱き家取るあたり

けく世人戻橋とい足洛陽に橋あり



皆社の奥入
 さの樹原
 まま様
 の
 ねん
 人
 賞
 あれ
 と
 と



一條
 橋
 人
 の
 橋
 後
 り
 帰
 り
 い
 は
 く
 泉
 武
 助

小野小町雙紙洗の水を庚橋の良諸候に浦に流すあり清和水といふ傳
 小町塔あり暗明水 い所あり安陪暗明密法成りては神あり海人の為下り松
は所あり一条の下り松あり
故より世ふなる

安陪暗明社を一条の西蔭屋町暗明町ありあり所へ暗明が靈神と
 古といは地暗明の居籠りりとも

水火天神へ堀川れ小天神の通りありあり所水火は靈神なりとも
 瑞光院へ安居院れ小ありあり所法孫の弟定之鎮守れ神は法孫

稻荷と称れ播州赤穂城主法野内匠頭長矩具外家臣の塔一基あり
大石内藏や長雄と始 當院に什物ふ内藏は画像辞世の詩歌書翰等あり
義記四十六人の姓を祀と

惠光山本隆寺とよしの小あり法善宗ありて因基八日直上人の題目の
 石塔を日像上人の作と

櫻葉宮を出水通千本れありあり所天照を神とむり右近馬場
 天降りの人日像の神明と称れ

水火天神
 瑞光院



石像寺



家隆山石像寺と千本通五辻の少あり降土宗より本尊阿彌陀佛を

菅公は浄化なり地蔵堂と弘法大師の竹ありよき像は地蔵あり

ありて並敷いしあり石像寺 前上総公藤原朝臣家隆御の塔あり

北向山歡喜寺の上之賣の西あり真言宗より本尊歡喜天と弘法

大師の化なり當寺を暖派帝の勅願所より開基は弘法大師と

石神社と歡喜寺の西ありなり所長はたごり岩石あり土藏の中へ安

石に舊く大内裏北境内あり

聚樂亭は旧地と一条の南二条の山より東へ宮を限り西へ朱雀通

坂場より大岡寺吉公天正十二年城郭と築は壯麗ありて人の威を重し

本ねし殿園は七寶と鑲る石木寺石ありて泰の阿房宮前漢は木宮

少とねし殿園は十六年四月行幸ありて和ふけ浄會法社あり

其後園白夷次ありて後めいしが文禄四年の滅亡より樓園ありて寺院

ありて今聚樂の名れ遺り町れ忍くあり

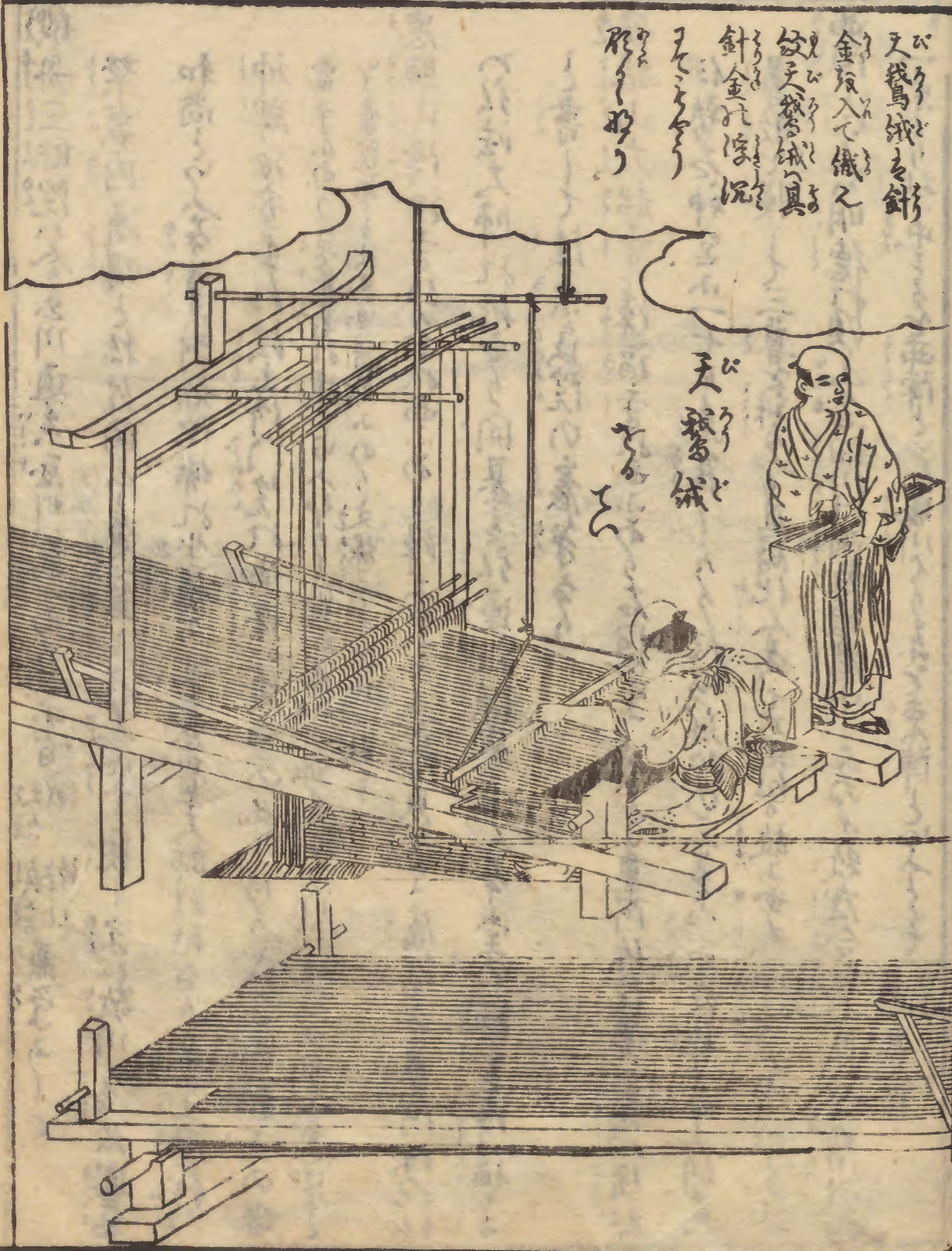
聚樂組と號する町社
九百二十町あり



般舟院



天鷲織を針
 金取入て織之
 故天鷲織具
 針金は深況
 天鷲織
 形く形



西陣は町小後具いへり
 ころころの呉服織とて
 際限なく金網錦唐織の
 るんがしつとやうな織を
 せん其地紋と紙小圖
 堅獲ふ糸れはく筋は引た
 具織物の機組は白
 離形と梅あり星を
 求めてを教へて糸
 配してさぬの地紋
 あるふ糸織とて
 名はけて高様と

錦
 織



般舟三昧院（今出川通系屋町の西小あり）宗上日（天合）眞記（兼）兼学（あり）て

禁裏内道場と稱し用山を惠篤上人善空と號し字は敬川諡は圓意

和尚といふ本尊阿弥陀佛れ坐像ありて惠覺大師れ化有り帝王歷代乃

神牌は安重を後土御門院れ御塔の本堂の西より式子内親王の塚

當寺小あり定家葛城墳といふむついで定家卿の別荘あり門前のはるな定家のはるな

（當院初之休見里指月小あり支縁三年は地を移す）

惠照山後福寺（一條）西小あり淨土宗ありて智恩院に属し本尊阿弥陀仏

弘法大師れ化有り開基は弘蓮社深譽上人本堂の額を淨福寺

と書して後奈良院の宸筆あり

安穩山大起寺（淨福寺）西小あり右は宗ありて本尊阿弥陀佛（惠心僧都

伊勢左神宮小一七日系終りたりは阿弥陀の尊空中に現下あり初其

尊形と摸して三尊と辨たり其時化人ありて其化人神明の所化といふ

西陣といふ明德は頃（今名細川）兩執権洛中（あり）を教有合紙ありは河堀川の西

一條より北屯とて西陣といふ堀川より東と東陣といふと

淨福寺
大起寺



浄華院



廬山寺



蓮臺山阿弥陀寺に京極通鞍馬に北南あり浄土宗ありて百万遍に属し

本尊の阿弥陀佛に弘法大師の位之因基を清玉上人方丈に織田信長を

同信心に影像を安んじ同公に墳墓外明智光秀致逆に御本持寺

に安んじ討死の長教輩の墓あり清玉上人信長公を羅敷け

墓宮山十念寺に阿弥陀寺の南にあり右日宗ありて本尊阿弥陀佛に弘法

大師の位之因基を直阿上人永享十二年七月二日寂し遺命より阿彌陀川に

廣布山本満寺に十念寺の南にあり法華宗ありて因基に日秀上人の祖師堂

日蓮上人の像に初丹波國黒田村にあり所の人熱病を癒して死するとの事

あり則に像の祟ありて中を捨つる未づり皇霜累りて死するとの事

あり阿弥陀中に續經に有る村にあり像ありて入るに窺ふに尊像を

得たり則同所生福あり安んじ其後宇津川に覺してそのあり像を

ありて都小堂あり市中に集めある寺の日宗一人をたてて高祖の像ありて速ふ

買ふるく當寺に安んじせり折敷の山に靈験ありてありて當宗の門徒常に集りて

淨華院に京極通今出川の南にあり浄土宗ありて浄土宗ありて浄土宗ありて浄土宗ありて

其像と安んじ阿弥陀堂の本尊の惠念の位之當院にありて天台宗ありて惠念大師の

内道場と稱せり故に號あり中興と法然上人より安五世向阿上人の俗姓に

源氏ありて武田安藝守時綱より舊園城寺の住侶浄善房證賢と

號し弘安十年發心して離れあり洛陽花園院小僧れ其後當院を因基に

身代不動尊當院に安んじありて三井寺の智光法師重病を癒しけりて安んじ

命断るありて其の位之聖空常持念一人の不動尊を中示現して安んじあり

廬山二天の講寺に浄善院に南にあり宗旨天台宗兼學あり因基に惠念上人あり

て與願金剛院と號し中興に住心する一日化人ありてこれ唐に惠遠法師ありて

廬山の二天の位之住心和尚と號し故に廬山と改むる事ある大師自化に像あり

壇上あり師佛と安んじ聖徳太子の位之此壇上に聖觀音像あり

此什物は法然上人自筆に選擇集ありて親鸞聖人自筆に聖徳太子の位之

此什物は法然上人自筆に選擇集ありて親鸞聖人自筆に聖徳太子の位之

下御霊社



革堂



下清靈社（京極通春日）の南ありありの神（八所）此清靈より上清靈

同神あり（八所）の社名の上より例系（八所）の觀音堂（社内）あり（洛陽）觀音堂（社内）あり（洛陽）

行願寺と下清靈の南隣り（一名）天台ありて本尊十一面千手觀音を長

八尺立像行圓上人の位（西國）身十九番れ巡禮所又（洛陽）加茂明神の石塔（五輪）

して高き上余あり塔あり（當寺）の圓基行圓上人（原鎮）西の人あり（寛弘）

二年小皇城は遊（頭）寶冠より（身）ハ革服被着り（人）

都人革上人と呼（行圓）は（千手）ハ悲陀羅尼被持（良材）被求（光）

觀音の像被拜（人）奉被預（り）ある夜の夏に（人）此沙門あり（靈本）と送（見）

として覺ぬ（翌朝）果して一僧あり告（り）中（を）鴨社（に）債（ふ）苔蒸（と）は

柳樹あり（六齊）日毎（千手）れ神祀被誦（る）宵聞（ぬ）ひ（鴨）を神宮

され樹下（天降）りあり（を）則行圓より被尋（り）○求（免）則神官（に）乞（け）

菩薩の像被き（ご）行願寺被嘗（て）安重（及）され當寺の本尊と

又行圓革服被常（着）るゆ（に）け寺被革堂（と）稱（れ）其後行圓乃

弟子仁弘法師は餘材被得（て）又八尺の像被依（り）西山良峯寺（に）奉（る）は
當寺初（ハ）一條通新町の西あり（故）一條華堂と（す）

清荒神社（京極）の東荒神（口）ありあり（所）八面八臂（れ）荒神あり（初）と拵別

勝尾山清小鎮坐（後）陽儀院勅（し）て文祿年中（五條）坊門油小（後）

西小あり具（後）北關小（近）り（人）た（と）は地（を）移（さ）る（宮）勅（遷）り（荒）社（マ）ハ

本誓寺と河原町一條の西あり（宗）首（の）親鸞聖人の弘法（より）して高田派と

本尊阿弥陀佛と惠心の位（り）して初（ハ）宇治惠心院（に）あり（本）堂と

秀吉公（北）の政所（に）化粧殿堂内の画（ハ）狩野（永）徳（が）筆（で）あり

妙塔山妙満寺と京極通二条の南あり（法）海宗（より）して圓基（日）什（と）

あり永徳二年五月（は）建（た）る（之）の地（ハ）綾小治堀川（の）西あり

道成寺鐘（當）寺（に）あり（れ）紀列（日）高道（依）寺（の）漆（り）銘（あり）兵（乱）り（て）伽藍（圓）

附（と）然（と）も（礎）あり（て）響（を）く（と）ら（ん）故（に）漆（を）鑄（び）て（て）碎（れ）ん（と）り（人）ハ

内（に）藏（む）初（を）能（頭）の下（に）あり（中）川の井（堂）あり（法）塔（七）井（の中）あり

妙満寺



本能寺の系極通押小治の南あり法華宗にして勝方派あり

日像上人より四世日齊上人因基日隆上人初の地を三角の南油小治の東に

あり今本住する町中興権大僧都日興上人筑波集りて和徳の書版著と

方々の前の門に聚樂城よりあり移を

受石山権現の古社あり

題目曼陀羅

聞法山頂妙寺二條橋東れ小之町あり右は宗一致派ありて因基日況上人

あり権大僧都法印ありて姓千葉氏下総國千葉郡の人永正十年四月

十二日寂れ未八十七常寺樓門の二天を持國天西六多門天ありて運慶

安阿弥の兩化之靈験新ありて常は諸人徳を

細川治部少輔源勝兵衛寺地依寄附して頂妙寺と号を初の地を新町通

鷹司町あり今下長者の山高倉所れ旧也ありて

天正の末又は地を遷



高田
專修寺御坊



源三位頼政の旧蹟は大炊御門今の新屋町京極北西あり

家業 二月のほいしにたまたましつたてふあり
 けりしを極楽寺と名づくもの人にもりて
 けりしを極楽寺と名づくもの人にもりて
 けりしを極楽寺と名づくもの人にもりて
 けりしを極楽寺と名づくもの人にもりて

君のこそむるれ指ぬるにけりしとて奉奉れ

かきあがりしをむるれ指ぬるにけりしとて奉奉れ

高松神明の姉小路新町の西より此地は羽院の帝長門守師行の御

の内裏と造らしめし
富社の内裏の回りの今社僧の住居
外相寺寶性院と號す

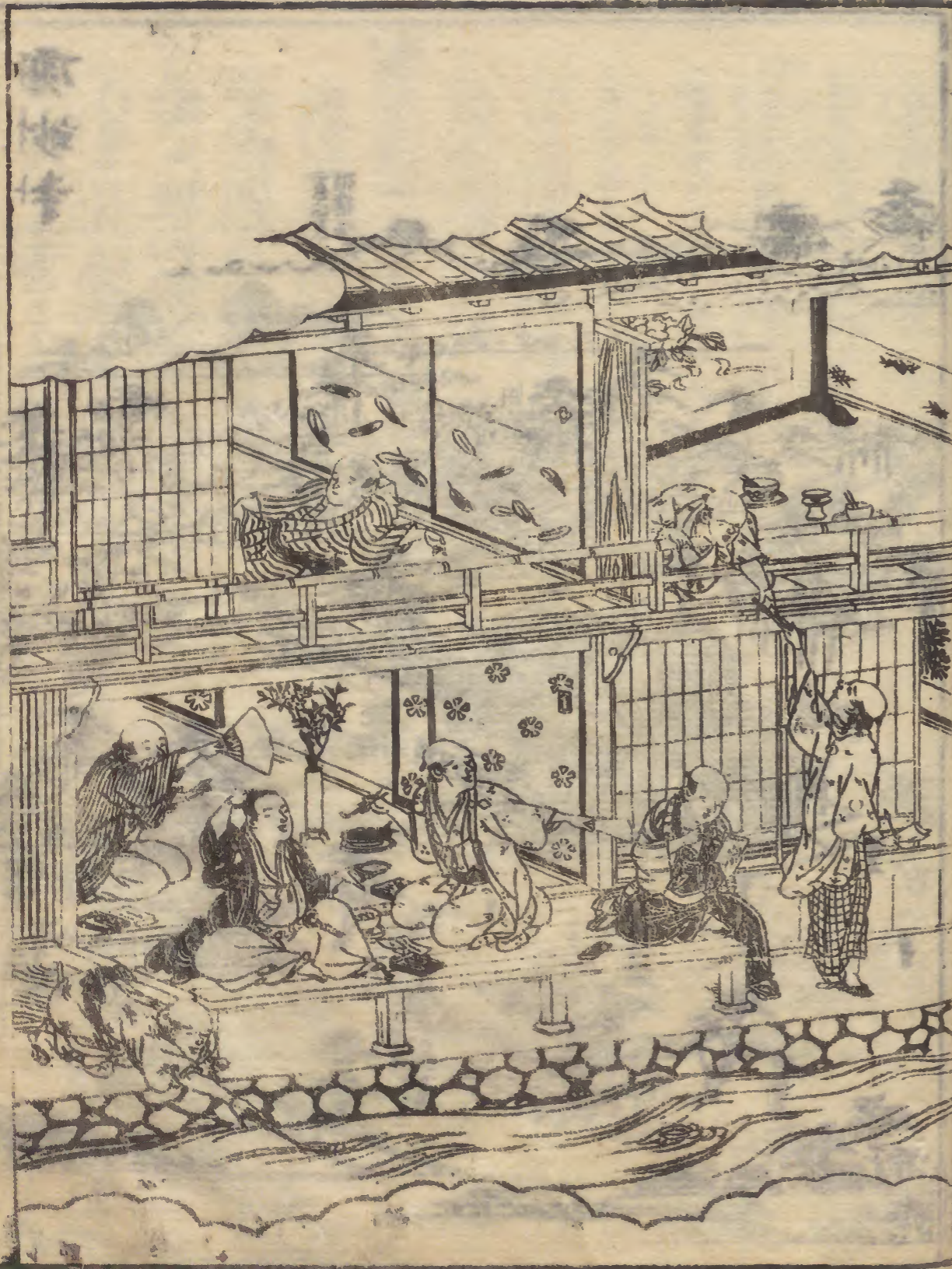
西行水三條坊門室町の東より

曼陀羅山天性寺の極北之條あり浄土宗ありて本尊阿弥陀佛の惠心の

他あり織姫中將姫の御世音の化身あり 中將姫の像目他あり

矢田の金剛寺の天性寺の南隣る浄土宗ありて本尊地藏の満上人の

他あり夕鳥本堂のあり 薬師安堂あり



生洲

主明の八高瀬川筋三條の
小舟の川を流るる舟の
さうりて舟を流るる舟の
舟の酒肴の商人主祥の舟の
川辺の舟の舟の舟の舟の
舟の舟の舟の舟の舟の
舟の舟の舟の舟の舟の
舟の舟の舟の舟の舟の
舟の舟の舟の舟の舟の



Vertical text in the upper left corner of the left page, likely a title or descriptive text.

廟
妙
寺



二
家
水
相
模
橋

本
堂

二
天
の
門

二
天
の
門

三條橋と東園より平安城に至り喉口あり貴賤の行人常々多く一と皇州
此繁花は橋上より欄干より紫銅に擬寶珠十八本あり七巻
銘板刻其銘小曰 洛陽三條之橋至後代化度往還人磐石之礎入地
五尋切石之柱六十二本蓋於日域石柱監錫乎天正十八年庚寅正月
日豊臣初之御代奉増田右衛門尉長盛造之

檀王法輪寺と三條橋東瓜瓜あり淨土宗ありて本尊阿彌陀佛の惠公此他之
古ハ悟真寺と號して良忠上人此弟子道之法師建立と應仁の乱後若く慶
乃く慶長年中代中上人再建ありて梅檀王院と号し 袋中上人退隱乃後
又條橋東瓜瓜あり袋中庵 主夜神祠と同基代中上人の初建之縁記小曰
慶長八年三月十八日代中上人別行入て念仏の念ふ念ふと生衣小
青袍を着て光明の中に居れ上人告て曰われ華嚴經に説くや 娑珊
娑演底主夜神之專修念佛の行者を擁護と云くと則ち後世授の事あり
應驗新やて常々行人多し 慶長及び當寺實藏あり近々今堂小鎮坐れ
願を石柱より顔を石柱より顔を石柱より顔を石柱より顔を石柱より顔

鎮守ハ加茂神社宮坂あり 當寺建立のり前の効験あり古鴨川橋のり
龍王祠あり鴨川の左岸に大なる御あり惠公とて人と書れ 油留池蔵
田畠二株松 袋中上人 慶長三所
不詳 松と松と松と

瑞泉寺と三條小橋の南あり淨土宗ありて本尊阿彌陀佛と聖徳太子
此化有り同基ハ三空柱叔和尚本願ハ圓白秀次公の母堂瑞龍院あり
秀次公退悼れ為一建立しあり 則秀次公 文禄年中に秀次公
右衛門秀吉公と對して逆んれ企あり 故に紀別高村と云へつと自殺と
首と取て三條河原に身入二十余人に妾婦并推子共い所あり
て斬罪して同穴に埋む其後塚を筑て上を截石あり銘小曰秀次悪逆
塚文禄四年七月十五日と書と 備石塔築あり妾婦二十余人の墳あり
先本町ハ鴨川の西岸三條の南あり川を過み水樓の如く軒端なつて
坐りて洛東に風を吹賞一酣歌の英客あり群れ
飛結乃底より雲ゆく流れる由 鬼貫



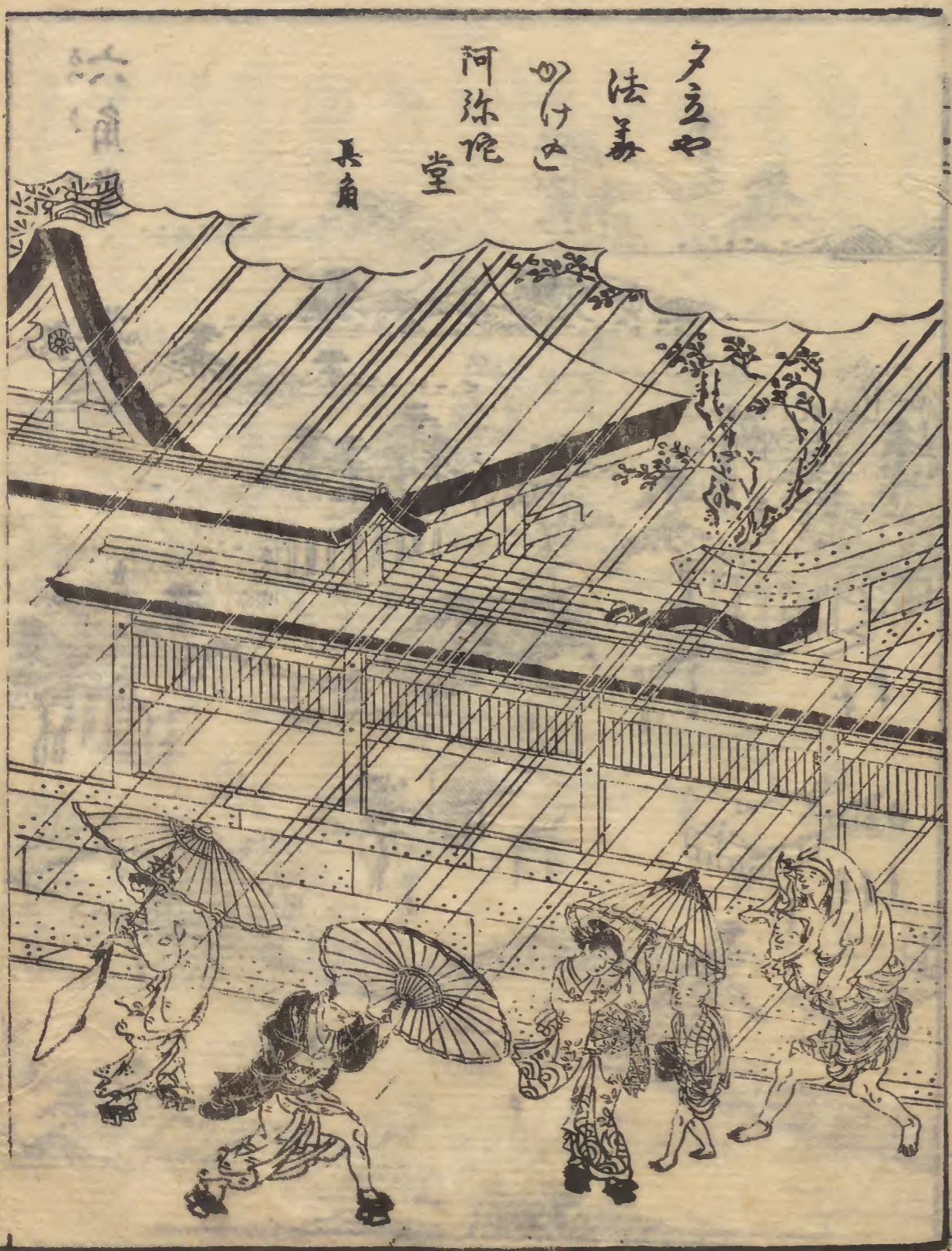
三條大橋



所八幡社八幡四一
 高余の西二あり足利尊氏公
 康永年中に勧修寺に就
 鳳凰山等持寺に遷す
 因師も普もににのみを
 津池と名せりいじり書光
 園殿下江草ありて其奈
 此より今雨齋田津池のふ
 人の裏小池の田舎あり
 遺より勧修寺津池通
 鳥丸の栗の石橋と云
 け水亭小のり
 花の田舎あり



又五や
 法美
 のけさ
 阿弥陀
 堂
 長角





六角堂

六角堂頂法寺の六角通馬丸通のしんぐみろて天台宗うして同基と

聖徳太子あり本尊如意輪観音の金像あり長一丈八歩西國十八番

三番此尊像をむの一從後必岩屋浦に夜と光あり燠くありて

像一尊像上日本玉玉王家とせりうのて因重小献りたを早く

ゆして是を我前生七世の持尊なりと尊崇し常小隨身し

時撰別四天王寺依造んとて材本依所に求らる具喚は所とて

郷土車里しつた子い色依休細しうに本清水小深のくを

解樹のけ金浴とて像依るありて重く去て離るまかし具疾乃

爰小本尊生口曰我を子のてあふ持せしるま七世今又は地

ありゆりて永衆生依利益せんと言ふ依りて東方たりる人の

曰は傍みえ本の核あり毎朝紫衣を履く是を靈材なりとい

とてふし初きしめ依本一株と立に六角の堂と堂の真後二百

十餘

歳を経て桓武天皇都城ありて定まらるる府官使條路を極り

後の中み當てる皆足依懸しうとて建立精舎依他所移さん

とて法しんハ依り黒雲よりてい堂自五土斗の力小退り

小洛坂通して都とあつふり一説は高麗國光明寺小寺り

地坊に立た當坊住職の中事度法師を依愛し

感いの立たの秘密と靈を授けりて其依りて中真とあり

錦天神社系極錦小洛坂の當ありて所天満天神と鳥居額

書之青蓮院尊英法親王に奉て拜殿の額に寶鏡寺宮理秀乃

宗百八時宗うて紫苔山歡喜光寺河原院上條道場と號

甥聖戒上人とて二年二月十日各寂當寺の旧地は東六條

寺之千鳥池當寺庫裏の傍にあり垣電社千鳥池の中

柗當社寺内の鎮守ありて古いた大融公依あり

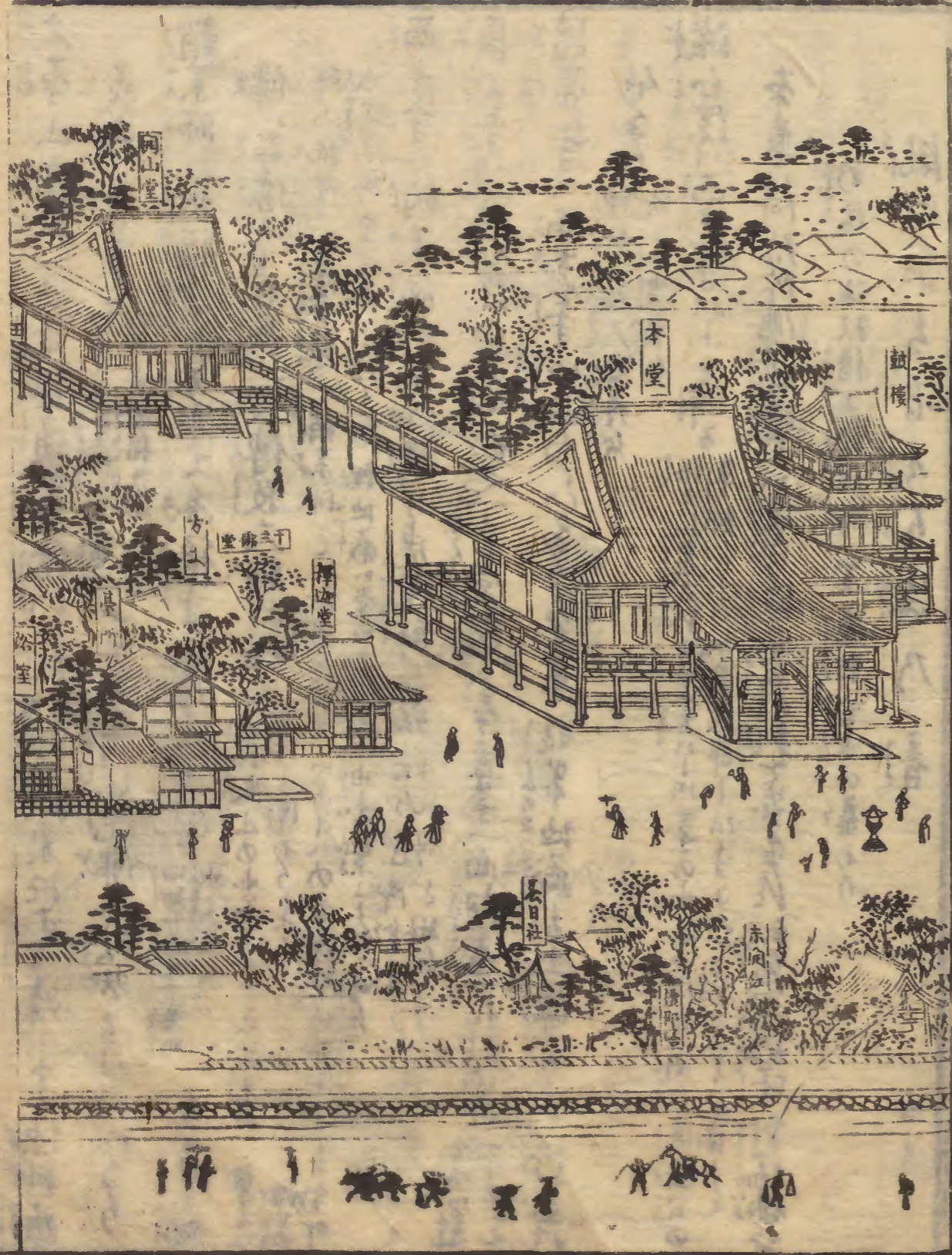
天満宮依勸請したり



錦天神



圓福寺
鮎薬師
泉式部
軒端梅



大本山圓通寺の京極通四條坊門 今ハ教部師ト東レの降ニテ京極坊

義の一存寺 いふハ堂前ニ系坊門ニ 本尊阿彌陀佛ハ法然上人の作アリ

銷業師永福寺と号して永福寺の境内小あり 旧地ハ三條堂前 本尊阿彌陀佛

佛の石像ありて長二人傳教大師に似 舊地敷山の如谷ニあり又銷業師ニ號スルハ

師と稱ズハ後世誤って銷業師といひ凡俗せり 旧地ニ澤あり足下の人澤數

西光寺の銷業師の小隣り虎業師弘法の他 水之上業師堂と池あり○經地藏ハ堂の前ニあり由來繁盛ト云ハル

長金寺の誠心院の西向いの一室堂 今ハ本尊十一面觀音ハ弘法の他

清帶寺の西光寺の西向いあり本尊胎藏地藏を土佛 行基作

竹多 懷妊の婦人安産ハ祈ルハ靈驗新ク

誠心院の西光寺の隣り 俗ハ和泉式部ト云ハル小川一系の中ニあり傳堂圓白道長公の

本尊の阿彌陀佛脇置ハ圓白道長公に似 和泉式部ト云ハル

新瑞の梅は備へ能僧師紫藤軒言水の基あり

風は果を有り海乃音



和泉式部が
我守推致が
女うて和和
ふとめせう
鳴又素顔
曼前樹の人
さりとて素人
四十茶のの
より尾ふをり
誠心院乃
小清堂了
専末未の資頼と
一遍上人誓言をうと祈れ
と弘めありて其靈魂
現れ上人の問答せし語
曲の意とも宜るらん

誓願寺の極之条あり後土宗より源州流義の一本寺なり本願を

天智天皇崩基の惠隠僧都と云和列平城あり桓武天皇は此の遺上

源信僧都の誓願に住し十餘世の遺藏僧本誓願寺通小川の西より人々此の遺師

僧正法然上人の法流一歸入一降土宗と云本尊阿弥陀佛八長八口の坐像

りして佛工賢同子及び圓兩人の化有り又春日大明神存る故ありて柱

助の故春日の神化と云佛面本堂のくまありて天智帝の遺像あり

額の大覺寺空性法親王の筆當寺再興大徳主大相國小幡方

上人の筆之堂内の壇上より天智帝の宸翰慧隠和尚の紙と安良之重

塔と云之和八年に草創りて本尊ハ谷樂師あり圓之堂より法然

上人の像あり釋迦堂より寶冠釋迦佛と安良鎮守ハ春日明神五輪

石塔秀吉公の愛妾松丸殿の墓法名清芳院月是盛次禪定庵と銘

辨慶石の方士の庭假山の山あり當寺再興の施主ハ檀那寺の故

手洗鉢は本あり羽二重井の方士の墓あり當寺ハ什物と烟除佛舎刊り

弘法大師より傳來と云法然上人の牧記法衣美嘆と一休和尚の字あり

茶具の中縁ハ茶鉢の牡丹のつらとて古物ハ明識く其上ハ曰一休和尚上人の

傳聞法然活如來

安坐蓮華上品墓

南无阿弥陀佛

一牧起清文寂奇哉

は外達廣虚堂つねと云の唯法然の一人と云

應仁二年二月五日

佛所

當寺の境内より紅梅数株あり如月の夜ハ都下れ人々よくふあり

未開紅の艶色ハ賞して美観と云

之ありぬ本と云くは梅花

塔中竹林院より小堀運別の叔父あり此れ外達別の庭中の風景

鑑倫は長仙院の庭佳境と云と云る

書羅

柳水の西田院三條に南小あり
 いふは所は風風と青柳と
 いふは真道場ありいふは名ん
 又いふはつりい鬼殿ありあつり捨
 柳水曰有佐と宅無所ありとを
 又朝成と悪霊ありとて明徳
 の兵大少回祿せしむり



空也堂録くたの茶室と
 賣の茶くたじり樹上
 天を此所宇夜痛ふふとわ
 了て死とてその教をた
 空也上人の依憐るる
 此像を依り茶室とて湯
 板ありねまに供一具茶湯板

空也堂
 法入ふふまより
 瘦たらし平愈
 して長壽とせり
 帝のれ板板威
 わりて右例と
 毎年三三を
 空也堂の茶室
 ありて茶室と
 あはね服とて
 年中邪氣なきと
 こといふ帝と初まあり
 あり今に王服と法入とて



紫雲山極樂院光勝寺の四條坊門垣川の東敲町あり空也堂と號す

極樂高泉和尚の著る本堂の類 宗有念佛宗と稱す本堂五の空也上人

自化の像本尊と稱す後脇士の地藏具沙門天之北の脇壇に坐像の阿彌陀仏

法女並に足行基の化へ空也上人の像あり 定盛法師香爐 南の壇上も定盛

法師の像安んず所空也上人延喜帝第二の皇子ありが塵外れ無為

張樂土心願はしく久しに遂に出家ぬし玉樓金殿と名いで山鞍馬其

小蕭然として山居る人懷鹿夜をみて閑坐と慰むる上人足之憐れ具智と

愛のふ事源一日鹿來ると終に平定盛とつもの遊獵して鹿と持あり

けしめぬを討てし由依いし上人大熱傷し具鹿と得てはと求む一角と投の

頭小狹て常小推るも獵者定盛上人の法徳に歸入所實も教化の何せ

妻の依具し頭有髪俗神して在依者 瓢と敲る上人神化れ和授

と風あて寒中ぬい夜五三昧市中争ふ飯餅佃し降土往生の因と稱す

地内八軒あり鉢敲し称す徳正房 金史房 壽松房 東坊正徳房 利徳房 南坊西巖

房等あり皆定盛法師の著る常茶釜と製して世に伝

上人定盛法師の示しありあり

山川に末の流るるほとりあり身を捨てて身を浮び遊しわん 空也上人

極樂もろはふりたり 不詳 入寂の天禄三年九月十一日真別會津出川

卿八葉寺を往生後遂もふ年七十也 京師より戻東に於て十一月十二日は日

け什寶吾あり片破鯉口 上人加茂社系縁の附明神出也 赤世衆生念佛往生證據す

衣替鯉口 松尾明神老翁と現し上人は湯して曰は頭の計供は繁若縁の法徳をけ

後補せりけれふかぬや空也上人はなすてななをとりけは衣と着て 鹿角杖 由縁

既四十年其妙香の著りけは衣とをとりあり箱收て衣衣着り 鹿角杖 由縁

け衣の鹿の著る今松尾の社ありしなり 御加衣沙衣 東福門院の

繪詞傳 空也上人の傳記あり清蓮院門院尊證法親王の 善女龍王社池の中傳る

神泉花ハ御池通入宮に西あり 直言ありて東寺 法菩提院の 善女龍王社池の中傳る

例糸ハ八月 二重塔ハ大日如來本尊に於て法成就地と云ひしり大内



光坂縣守敏諸龍苑一七瓶中入弘法大師天竺無熱沙の善女龍
 神と清々天下早魁れ愁いと柱て敷感を常々小野小町と和歌と詠し雨と降
 一踏の宜旨とうけて羽と伏蹲れ官人あれ安くと補し帝許感れあり又
 位は爵を賜りとい所又白河院游の御務をうせ敷感ありと務は
 池中入て金覆輪のた刀を喰ふえよりり早より銘孤鶴丸と山宗徳院に傳り
 六条判官為義此許劔と場より祇園會もあはれ始り弘仁三年より後
 帝は苑中小於て花宴あり是花宴の始る本朝文粹源順の曰神泉苑を禁
 苑の具より紅林地度うと楚夏夜會中小る緑池水高うと兵江坂眼
 下は縮むくちり星霜漸累り遂は建保打頃より荒廢なるも承久の乱後
 武別の禪院築地高うと門を堅て修造ある具後又あはれ旧跡あり
 と之れの後心坑紫井僧賞雅とて官小申て再興し真言の靈場とるは北野
 右近馬場は神泉苑とて終るうとつと星大内裏の遺跡あり
 半時

半時

不來平薬師



不^こ和^わ乎^や薬^{やく}師^しを^を金^{かね}の^の座^ざ二^に条^{じょう}上^{じやう}に^に西^{さい}側^{がわ}に^{あり}本^{ほん}尊^{そん}を^を比^ひ叡^い山^{さん}傳^{でん}教^{きやう}大^{だい}師^し
一^{いつ}刀^{たう}之^の禮^{らい}七^{しち}尊^{そん}彫^{てう}刻^{こく}し^て多^{おほ}く^く日^{にっ}本^{ほん}七^{しち}佛^{ぶつ}の^の一^{いつ}棒^{ぼう}を^を住^{ぢゆう}昔^{せき}羨^{せん}深^{しん}必^{ひつ}横^{ごう}倉^{そう}
に^に一^{いつ}院^{いん}の^の役^{やく}け^を安^{あん}重^{じゆう}なる^を其^{その}頂^{ちやう}尾^び張^{ぢやう}玉^{ぎよ}山^{さん}田^{でん}郡^{ぐん}に^に何^{なに}某^{むす}右^う馬^ま允^{いん}明^{めい}長^{ぢやう}
と^{して}武^ぶ士^しあり^て明^{めい}暮^ぼ尊^{そん}敬^{けい}し^て多^{おほ}く^くに^に承^{じやう}久^{きう}之^の奉^{ほう}是^ぜ又^{また}月^{げつ}京^{けい}深^{しん}倉^{そう}乃^な我^が
其^{その}所^{ところ}高^{たか}名^な有^{あり}し^て七^{しち}湫^{しゆう}川^{せん}の^の我^が源^{げん}に^に承^{じやう}久^{きう}之^の奉^{ほう}是^ぜ又^{また}月^{げつ}京^{けい}深^{しん}倉^{そう}乃^な我^が
一^{いつ}人^{ひと}の^の僧^{そう}と^{して}化^けして^{して}草^{そう}を^をも^もみ^みあ^ある^るか^かり^り明^{めい}長^{ぢやう}是^ぜを^を後^ごと^{して}立^た所^{ところ}に^に
疔^{ぢゆう}平^{へい}金^{かね}一^{いつ}本^{ほん}園^{えん}に^に歸^{かへ}り^て又^{また}實^{じつ}喜^ぎ二^に年^{ねん}夏^げ六^{ろく}月^{げつ}と^{して}を^を氣^き
と^げく^く極^{ごく}寒^{かん}の^のさ^さと^とく^くる^るれ^い疫^{えき}疔^{ぢゆう}流^{りゆう}り^て死^しと^{して}其^{その}妻^{さい}に^に多^{おほ}く^く
終^{はつ}る^るに^に此^{この}茶^{ちや}師^し院^{いん}之^の差^さ且^{かつ}告^こて^て宣^{のたま}く^く一^{いつ}切^{せつ}の^の元^{げん}生^{じやう}我^が前^{まへ}に^に來^きり^て法^{ほふ}病^{びやう}患^{わづ}
除^ぞる^るに^にこ^こぬ^ぬり^てと^とあり^て一^{いつ}に^に感^{かん}涙^{なみだ}油^{あぶら}且^{かつ}余^{あま}り^て七^{しち}世^{せい}に^に是^ぜを^を稱^{せう}す^す
む^むに^に貴^き姓^{せい}群^{ぐん}集^{じつ}し^て系^{けい}清^{せい}の^の車^{くるま}疫^{えき}病^{びやう}息^{いき}平^{へい}金^{かね}と^{して}後^ごに^に瀧^{たき}田^{でん}信^{しん}長^{ぢやう}は^は車^{くるま}
在^あ住^{ぢゆう}の^のと^とに^に被^ひ藤^{とう}と^{して}城^{ぢやう}守^{しゆ}け^を茶^{ちや}師^しを^を今^{いま}の^の所^{ところ}に^に被^ひと^{して}ま^まり^て都^と鄙^び
の^の貴^き賤^{せん}教^{きやう}多^{おほ}く^く信^{しん}仰^{やう}し^て靈^{れい}驗^{げん}あり^て奉^{ほう}委^い記^きし^てく^く

